



ウッディホールにて
カルチャーナイト開催



2023. 8 No. 89

- ・山地災害発生時における林道復旧の迅速化に向けて
～ 災害調査へのモバイルタブレットの活用～
- ・根釧地域におけるエゾシカ被害低減対策
- ・こんにちは森林官です！ 初山別森林事務所
- ・夏も木育（夏休み子ども体験デー、カルチャーナイト2023）



林野庁



北海道森林管理局

山地災害発生時における林道復旧の迅速化に向けて

～災害調査へのモバイルタブレットの活用～

森林整備部森林整備第二課

【はじめに】

山地災害は、国土の緑化等により、発生件数は減少傾向にある一方で、気候変動により短時間強雨の年間発生回数が増加傾向にあるなど、降水形態が変化する中、激甚化・同時多発化する傾向にあります。山地災害発生後、復旧の検討を行うためには、関係者が被害の全容を把握することが不可欠です。このため、林野庁では、激甚化・同時多発化の傾向にある山地災害の発生時における調査及び被害状況の情報共有の迅速化及び省力化を目的とした山地災害調査アプリケーション（以下「アプリ」）を開発し、その活用の推進に取り組んでいます。

【アプリの特徴】

アプリには、山地災害に対応するために様々なメニューが用意されており、林道については、「林道災害調査カルテ」及び「林道施設点検カルテ」をモバイルタブレットにインストールすることで、現場で被災箇所の場所や被害の規模など状況把握に必要な項目の入力・整理が可能になります。これによりアプリに入力された被害状況などのデータは、クラウドサービスとの通信を通じて、被災現場から簡単にアプリを利用する組織内へ情報共有することができ、調査箇所が通信可能なエリア内であれば即座に、通信不能なエリアであっても、通信可能なエリアに移動すれば自動でデータが送信されます。

また、送信されたデータは、位置情報をもとに、地図情報に重ねられて整理されるため、同時多発的に被害が発生した場合でも、どこでどのような被害が生じているかイメージをしやすくなると考えています。

さらに、取得したデータは定型のレポートとして出力することができます。このレポートには位置図や写真も自動的に添付され、被災状況をわかりやすくまとめることができ、迅速に詳細な情報の共有を行うことが可能になります。



令和5年8月の大雨による河川の増水で被災した林道



北海道森林管理局では、モバイルタブレット端末を森林管理局・署で合計26台導入しました。モバイルタブレット端末を活用したアプリの使用方法について各署等の担当者に周知し、このシステムの利用を推進することにより、災害調査等の迅速化、省力化を図ることとしています。

これまで、情報共有のためには、現地調査後に被害状況を取りまとめた資料の作成に多くの時間を必要としていましたが、作業が迅速化された上に省力化も実現されています。

【タブレットの活用】

タブレットの通信機能やアプリケーションの活用でこれまで現場では難しかった航空写真や台帳類などの森林情報が現地で照合可能になることで、災害対応のみならず、様々な場面で、事務作業の迅速化や負担軽減が可能となることから、タブレットの活用に向け取り組むこととしています。

【山地災害アプリケーション（林道関係）の概要】

①被害調査・点検結果の登録

調査位置や被害状況・点検結果の詳細について、フォーマット上で登録できる。



【林道災害調査カルテの画面】

アプリ内で、現在位置の情報が取得可能で、オンライン環境では、地図も併せて表示されます。（この画面では3回の操作で詳細な位置情報を取得）

また、被害の詳細として、被害の規模や形態を入力できるほか、緊急性や想定される原因などの項目を入力することができます。

②現地写真の登録

現地で撮影した写真をアプリで登録すると、机上でもすぐに確認できる。



【林道施設点検カルテの画面】

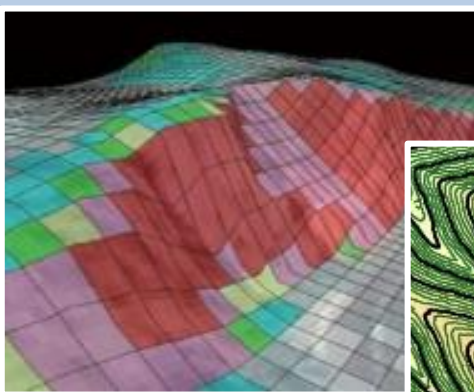
アプリ内で撮影した写真を、そのまま登録し、共有することができます。

また、林道災害調査では多くの写真を撮影することがありますが、林道災害調査カルテでは、撮影した写真から適切な6枚を登録して記録し、共有することができます。

③林道災害被害報告様式レポートの出力

林道災害調査カルテ専用サイトを使用し、報告レポートを出力できる。

【タブレットのさらなる活用に向けて】



これまで、現場への持ち込みが容易ではなかった地形情報や航空写真、樹木の生育状況などの膨大な森林に関する情報を、現地で参照可能となるよう機器環境を整備することで、様々な調査等の効率性が向上することが期待されます。

地域課題の解決に向けた取組

根室地域におけるエゾシカ被害低減対策

根釧東部森林管理署

【はじめに】

根釧東部森林管理署は、我が国の最東端に位置する森林管理署で、根室振興局管内の根室市、別海町、中標津町、標津町及び羅臼町内の森林面積の約6割にあたる106,000ヘクタールの森林を管理しています。

【地域の課題】

根室地域のエゾシカによる農林業被害額は、ここ数年減少傾向ですが、高水準で推移しており、基幹産業である酪農業に深刻な影響を与えています。また、国有林においても、造林木の食害や立木への角こすりなどの被害が発生しています。

【囲いわなによる捕獲】

当署では、平成26年度よりエゾシカの越冬地となっている根室市内の海岸沿いの国有林において大型囲いわなによる捕獲を実施しています。

捕獲は、初めに大型囲いわな周辺に牧草を撒いてエゾシカを誘引します。警戒心が薄れたところでわな内に牧草ロールを置いて、カメラで監視し、エゾシカがわなに入ったところで扉を遠隔操作し捕獲します。

現在は、根室市内の長節、落石地区2箇所では捕獲を行っており、令和4年度の捕獲頭数は合計で298頭となりました。捕獲開始からの累計捕獲頭数は1,397頭となり、囲いわなによる捕獲は、今後も継続して行きたいと考えています。

【忌避剤の効果を検証中】

今年度からの取組としては、エゾシカ忌避剤の効果的、効率的な散布方法を検証しています。

造林木の食害被害拡大による成林の遅れや再造林経費の増大が懸念されることから、令和4年の秋にカラマツコンテナ苗を植えた造林地に試験地を設定し、自動撮影カメラを設置して忌避剤散布の有無や忌避剤散布前後のエゾシカの行動分析を



野付半島から望む羅臼岳。根釧東部森林管理署が管轄する国有林は、世界自然遺産に登録された知床半島の南西側、武佐岳などが連なる摩周湖までの山岳林、北海道遺産に選定された格子状防風林、希少な野生動植物が生息・生育している根室半島や野付半島の海岸林など、様々な特色を持つ森林からなっています。



捕獲事業は、根室市との連携により実施しています。連携の一環として、根室市は国有林内でエゾシカの生息調査を行っており、得られたデータは今後の対策への活用が期待されます。

また、大型囲いわなで捕獲されたエゾシカは、地元の食肉加工業者に引き取られ、活用されています。

行っているところです。検証結果がまとまった際には、民有林でも活用できるようにしたいと考えています。

こんにちは 森林官です!

留萌北部森林管理署
初山別森林事務所
地域統括森林官 山端 孝



【森林事務所の特徴】

初山別森林事務所は北海道北部の留萌振興局管内のほぼ中央に位置する初山別村の市街地にあり、初山別村全域と羽幌町の一部の国有林、合わせて約26,400ヘクタールを管理しています。

地勢として、東部背面地帯は天塩山系で占められ、北は風連別川、南には築別川があります。

【初山別村の特色】

初山別村は、豊かな自然と資源に恵まれており、基幹産業として農林漁業が重要な位置を占めています。

また、「しょさんべつ天文台」を含めた「みさき台公園」は、オロロンラインの中継地点とした観光拠点であり、ここを中心として自然景観を生かした観光産業にも力を入れています。

【初山別地域森林整備に関する共同施業団地の取組について】

当地域では、平成23年に初山別村、遠別初山別森林組合、留萌振興局、留萌北部森林管理署が協力して適切な森林整備を推進する「森林共同施業団地」を設定しています。これは、民有林と国有林が一体となって森林整備の推進、森林・林業教育の普及等を行い、森林の持つ水源かん養、土砂流出防備、木材生産などの多面的機能を十分に発揮させ、当地域における森林・林業の発展に寄与することを目的とするものです。

【最後に】

今年4月に、羽幌森林事務所と併せ、新たに初山別森林事務所を担当することになりました。

適切な森林整備が、農地や沿岸環境の保全や、流域の多くの町村への良質な水の安定供給につながっていることを肝に銘じ、スタッフとともに、引きつづき「森林づくり」と「森林環境教育」に取り組んでいきたいと考えています。



管内の森林は、針広混交林が主体で、その混交林は、針葉樹が少なく、広葉樹が多いことが特徴です。



初山別村では、緑化意識の高揚や啓発、林業後継者の育成を目的とし、3箇所23ヘクタールにおいて、北海道森林管理局長と分収造林契約をしています。分収造林を通じて長年にわたり森づくりを継続していることから、令和5年3月に、初山別村長に対して、署長から木製感謝状を贈呈しました。



森林共同施業団地の構成員による打ち合わせの様子。今年度は、低密度植栽・下刈省力化をテーマとした造林の低コスト化に向けた勉強会と村内の小学生を対象に「森林についての話」、「木工キットを活用した木工づくり」をテーマとした森林教室を、森林共同施業団地の構成員合同で開催することとしています。

夏休み 子ども体験デー In さとらんど



夏も

令和5年8月3日（木曜日）、札幌市さとらんど交流館にて、北海道森林管理局のほか北海道農政事務所、北海道開発局、横浜植物防疫所札幌支所、動物検疫所北海道・東北支所、北海道漁業調整事務所の6機関主催で「夏休み子ども体験デー」を開催し、各機関が特色を生かした体験ブースを出展しました。

このイベントは、北海道の基幹産業である農林水産業に関する体験を通して、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、農林水産関係の施策に対する理解を深めてもらうことを目的として開催しています。



北海道森林管理局は「木のコースター・木のたまごストラップづくり」「もくねんさん（おがくず粘土細工）」の体験ブース、「北の森カルタ&北海道の樹木パネル」展示を行いました。



木のコースター・ 木のたまご ストラップづくり

輪切り板や木のたまごにイラストを描いて、自分だけのコースターやキーホルダー、ストラップを作成し、木の感触や木の香りを感じてもらうことができました。



もくねんさん （おがくず粘土細工）

「もくねんさん」は、鉛筆を製造する際に出るおがくずからできた、木の香りがする粘土です。自由にいろいろな作品を作りました。



おがくずが
かわいい作品に！



木育

技術普及課



カルチャーナイト 2023 In 北海道森林管理局 (ウッディホール)



令和5年7月21日（金曜日）、認定NPO法人カルチャーナイト北海道の主催による「カルチャーナイト2023」が開催され、北海道森林管理局もイベントに参加しました。

「カルチャーナイト」は、北欧発祥の行事で、札幌市内全域の公共・文化施設、企業施設を一日だけ特別に夜間開放するほか、地域文化を楽しく学べる動画コンテンツを配信するイベントです。

札幌での開催は今年で21周年を迎え、北海道森林管理局の参加は13回目となります。

北海道森林管理局は1階のウッディホールで、「年輪ドミノ」、「VRで森林擬似体験」、職員が製作した「北の森カルタ」を使った「森moriカフェ」(森林教室)等の5つのメニューを実施しました。

年輪ドミノに挑戦！

樹齢315年のクロエゾマツから作られたドミノを使って、たくさんの子供たちに遊んでいただきました。「ドミノを倒した時の木の音がいい、木のドミノの柔らかな感触がとてもいい」等、木の良さを改めて感じてもらうことができました。



VRで森林擬似体験

VRゴーグルやタブレットを使って森の中を擬似体験します。

「森の中を歩いているみたい」、「実際に山へ行ってみたい」等、森林に興味を持ってもらうことができました。



森moriカフェ

始めに写真やイラストで、樹木や葉っぱ、動物、森林について知ってもらい、その後は「北の森カルタ」で札を取り合います。



1番札を取った人には「木んメダル」授与！



各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

利根別自然休養林内のオオハンゴンソウの駆除を実施しました



【空知森林管理署】



8月2日（水曜日）、岩見沢市の利根別自然休養林において、北米原産の特定外来生物オオハンゴンソウの駆除を行いました。この活動は、平成23年からNPO法人利根別の森ネットワークが、令和3年からは岩見沢市が環境省の認可を受け実施しています。

当日は、岩見沢市、空知森林管理署、一般財団法人岩見沢振興公社、花と緑の少年団等が参加しました。暑い時期ですが、オオハンゴンソウの花が咲くこの時期が一番見分けやすいため、参加者一同汗だくになりながら、「くじらかぎ」という道具を利用して、根っこから抜き取って駆除しました。

暑寒別岳清掃登山を実施！



【留萌南部森林管理署】



8月1日（火曜日）、暑寒別岳の清掃登山を実施しました。暑寒別岳を中心とする地域は高山植物が豊かであり、美しい景観を有していることなどから国定公園に指定されていますので、登山道に落ちているゴミを回収し、美しい景観の保持に貢献すべく、職場有志14名で行いました。

登山道は、入山される皆様のご協力により、ゴミは少ない印象でした。ゴミの持ち帰りにご協力いただき、誠にありがとうございます！

引き続き、マナーやルールを守り、安全な山行をしていただきますよう、お願いいたします。

森の中でスタンプラリー ～湧別町立芭露学園 森林教室～



【網走西部森林管理署】



7月21日（金曜日）、湧別町立芭露学園において、児童1～6年生まで26名を対象とした「森林教室」を、先生7名とともに行いました。

今回は、職員オリジナルのプログラムで、葉っぱ等のヒントをもとに特定の樹木を児童に探してもらった「森のスタンプラリー」を実施しました。児童たちは、学年が混在した5～6名のグループに分かれ、葉っぱ等のヒントをもとに自然に触れながら散策し、それぞれの樹木を探します。対象の樹木を見つけたら、その樹木の説明を受けてから、スタンプをもらい、スタンプラリーを完成させました。

ひだか樹魂まつりに出展



【日高北部森林管理署】



7月22日（土曜日）、日高町において、「第50回ひだか樹魂まつり」が開催され、当署は、スウェーデントーチ作りやおがくず粘土工作などの体験コーナーの設置と併せて「北海道の木のエほん」のパネル展示し、国有林のPRを行いました。

当日は晴れて気温もかなり高くなりましたが、当署のブースにも子供から大人まで沢山の人が訪れ、普段あまり体験できない丸太切りやおがくず粘土工作などで盛り上がりました。おがくず粘土コーナーでは、参加した子供から「家族にプレゼントしたくて頑張った。」という声も聞きました。

もり
広報 「北の森林 国有林」8月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537
札幌市中央区宮の森3条7丁目70
電話 011-622-5213
HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

「キビタキ」

今月はキビタキのイラストを表紙右下に掲載しました。キビタキは全長14cm程の夏鳥で、オスは黄色と黒の配色が鮮やかです。イラストではカツラの枝にとまってさえずっています。



今月の表紙